

ニュースレター



NPO法人 家庭的保育全国連絡協議会

12号 2011.12.22

☆ はじめに ☆

NPO法人家庭的保育全国連絡協議会理事長 鈴木 道子

師走に入ると街のあちこちがクリスマスで一色になってきますね。皆様の保育室もツリーの飾りものなどで彩られ、華やかになっている事でしょう。子どもたちが楽しみにしているクリスマス行事も、もう直ぐですね！風邪や下痢等が流行りだしています。子ども達の体調に配慮しながらこの寒い冬をのりきりしましょう。

待機児童の増大により認可保育所が満杯の現状を背景に、家庭的保育や認可外保育所では低年齢児の受け入れが増え、加えてリーマンショック以降の経済の冷え込みから、0歳児の入所も増えています。この様な中でこの一年間、家庭的保育においても死亡が起こり、若い子ども達の尊い命が亡くなり胸を痛めております。お亡くなりになられたお子様、ご家族の皆さまに心よりお悔やみ申し上げます。

ひとたび大切な命が失われると、一生懸命保育している私たちも心が沈み、改めて責任の重さを感じさせられます。安全・安心な保育は、すべての家庭的保育者に突きつけられている課題となってきています。そこで、子ども達の命に関わる重大な事故を防ぎ、安全に配慮した保育を行おうと、今年度は独立行政法人福祉医療機構の助成を受け、平成23年度社会福祉振興助成事業の一環として「家庭的保育の安全ガイドライン」策定事業を進めております。立春を過ぎる頃完成予定の、安全ガイドラインを傍らにおいて最低限遵守すべき事項を見出し、自分にあった安全対策を考え実施すれば、家庭的保育における死亡ゼロに役立ちます。加えて、事故防止にも大いに役立つことと思います。完成を目指して努力していますので、もうしばらくお待ち下さい。

大切な子ども達の命を守るためには、会員・非会員を問わず全国の家庭的保育者、そして家庭的保育補助者、保育所、認可外保育所など保育関係の方々、自治体関係者、家庭的保育に関心のある方など、すべての方々に安全管理が定着するように、「家庭的保育の安全ガイドライン」に、関心を持って欲しいと思います。皆様のご理解とご協力をお願い致します。

また11月27日(日)には、家庭的保育の普及のために、神奈川県と当協議会が「家庭的保育フォーラム」を共催しました。この日は9月から行われた基礎研修の最終日でもあり、研修の締めくくりを兼ねて行われました。フォーラム“あたたか、こまやか、すこやかな保育をめざして”には200名近い方の参加があり、家庭的保育をよく知ってもらう第一歩として成功裡に終了しました。

☆目次

1P	はじめに	8P	いっしょにあそぼ！in厚木報告
2P~3P	安全ガイドライン策定事業中間報告	9P	私の保育⑦
4P~5P	出前講座報告	10P	おすすめ絵本⑦
6P	理事会決定報告・大震災報告	11P~12P	事務局よりお知らせ
7P	第43回群馬合研報告		保険加入手続、会員募集・現任研修・新刊紹介

■平成23年度社会福祉振興助成事業■
家庭的保育の安全ガイドライン策定事業 中間報告
～安全・安心な家庭的保育を目指して～

当協議会では、独立行政法人福祉医療機構の助成を受け、平成23年度社会福祉振興助成事業の一環として「家庭的保育の安全ガイドライン」策定事業に取り組んでいます。現在の進捗状況について報告します。

◇家庭的保育者発「家庭的保育の安全ガイドライン」

家庭的保育者が日々保育していく中で、どのように安全な保育環境を整備しどのような体制を整え、支援を確保することが必要なのかを、家庭的保育者の目線からまとめています。地域性、自治体の規定、保育が行われる環境、保育者自身の経験などによりさまざまな違いがありますが、その違いがあることも踏まえ安全ガイドラインを策定し、「家庭的保育の安全ガイドライン」にそって自分に必要な項目、自分に合った安全対策が行えるようにすることを目的としています。このガイドライン策定により、子どもの安全を守り、保護者の安心を確保し、さらに家庭的保育者が、安心して保育を行えるものになりたいと考えています。

◇皆で考える「家庭的保育の安全ガイドライン」

ガイドライン策定に当たっては、全国の家庭的保育者、保育補助者、行政担当者、家庭的保育支援者、保育所関係の方々など、多くの方の協力を得ながら進めています。

7月から各地域から集まった保育者がメンバーとなり作業部会を開き、情報収集から始め、何が必要なのか、どんな内容にするのか、実際にどのように使っていくのか、話し合いを重ねながら柱建てをしました。さらにそれを持ち帰り、それぞれが参考になる資料を調べたり、各人の保育実践を通し、ガイドラインの素案づくりに取り組んできました。

また、作業部会に参加できない保育者は、日頃の保育で心がけている事、ヒヤリ・ハットしたことで改善したことなどについて、アンケートで答えてくださいました。それらは素案づくりの段階で参考にしました。作業部会で作成された素案は、専門の先生方からなる検討委員会で指摘やご意見を伺いながら、内容、構成に反映させています。

◇ワークショップの開催

11月6日船橋市、11月20日山形市、11月13日名古屋市、そして12月11日横浜市と、全国4か所でワークショップを開催しました。

会場ごとにメインテーマを決め、グループ討議の形で活発に検討が進められました。参加して下さった皆様が一つ一つ丁寧に検討し、日頃の取り組みや新たな貴重な意見を出してくださいました。参加者の熱心さと安全管理の意識の高さ、真剣さがうかがえるもので、これらはガイドラインを作成する上で、欠くことのできない意見です。

※船橋市、名古屋市、山形市、横浜市でワークショップに参加された皆様、準備にご尽力下さった皆様、そして、アンケートに貴重な情報をお寄せ下さった皆様に心より感謝申し上げます。

◇DVD「3・11 その時、保育園は-いのちをまもる いのちをつなぐ-」の視聴

各ワークショップ開催と同時に、この事業の目的でもある“子どもの安全・いのちをまもる”という観点から日本女子体育大学 天野球路先生監修による標記のDVD〈岩波映像(株)〉を視聴しました。

私たち家庭的保育者には、子どもの命をいかに守るか、瞬時の判断が求められています。いつでも何処でも何かが起こりうるということを自覚し、細心の注意を払っていく必要性を、改めて感じています。

担当 鈴木桂子

開催地報告<1>

◆ワークショップ千葉◆

- ① 開催日時 11月6日(日)13:00~16:00
 ② 開催場所 船橋市勤労市民センター 3階第一会議室
 ③ 講師 全国保育園保健師看護師連絡会 高橋 良子氏
 子どもの領域研究所所長 尾木 まり氏

第1回ワークショップは、11月6日千葉県船橋市で開催されました。当協議会が主催する研修会等は千葉県では今回のワークショップが初めてとなりました。家庭的保育者・支援員を中心に船橋、市原市、千葉市、東京、茨城と広く参加申し込みがあり、初めてお会いする方も多かったのですが、そこは同じ仕事をする仲間～目的が一緒なので、情報交換をしながら熱心に話し合いが進められ参加者の意識の高さが伺えました。千葉のメインテーマは、「健康・衛生」です。講師の高橋良子先生、尾木まり先生の助言を受けるとともに、皆様の意見に新たに気づかされたことも多かったです。

討議終了後のアンケートの中に「改めて“命を預かっている”仕事であると認識です」との記入がありました。実りある話し合いが出来たと思います。 担当 鈴木 桂子

開催地報告<2>

◆ワークショップ名古屋◆

- ① 開催日時 11月13日(日)13:00~16:00
 ② 開催場所 愛知県社会福祉会館
 ③ 講師 関東学院大学准教授 澁谷 昌史氏

「いざという時に備えて 防災・防犯、緊急時対応」

このテーマは、子どもの生命に直結し、迅速かつ的確な判断を必要とする内容です。すべて“想定外”思いもしなかったことが起こった時、家庭的保育者としてどのように子どもを守るか、何ができるか。午前中に東日本大震災の「3.11その時、保育園は」のDVDを視聴していたので、それぞれ想像や対岸の火事ではなく、現実に自分にも起こりうるという思いをもって真剣な話し合いができました。

参加者は、講師の澁谷昌史先生を中心に、家庭的保育者、補助者、行政担当者、連携保育園保育者など20名。休憩時間さえ、どのグループも話し合いを止めることなく、意見を出し合っていました。“想定外”は想定外ではなく“想定内”として危機管理をしておかなければならない。その十分な危機管理があつてこそ“いざ!”という時、的確な判断ができるのだと、改めて学び、確認できました。今年の秋、台風で市のほとんどが浸水の恐れがあった名古屋のみなさんは情報と行動の大切さを仰っていました。名古屋で出された多くの意見が安全ガイドライン策定に反映されることでしょう。 担当 水嶋 昌子

開催地報告<3>

◆ワークショップ山形◆

- ① 開催日時 11月20日(日)13:00~16:00
 ② 開催場所 山形市男女共同参画センター 第2研修室・視聴覚室
 ③ 講師 駒沢女子短期大学教授 福川 須美氏

「3.11その時、保育園は」のDVDを視聴したあと、宮城県亘理町の保育者から、受託児とその家族全員を津波で失ったことを伺いました。“辛い体験を、思い出さないようにしている”との言葉を参加者全員が重く受け止め、テーマに基づく真剣な討議を重ねました。

「食の安全」を山形市・亘理町・厚木市・町田市・練馬区の家庭的保育者、補助者、保育事業者17名が、3グループで討議しましたが、保育者ならではの視点から、訂正事項が提示されています。「屋外における事故防止〈乗物を使用する場合〉」では、車使用など、行政の対応が同一ではなく、相互の状況確認を行ないました。「保育者の自己管理」では、ストレスの具体的事例などについて検討しました。福川先生からは、子どもたちや保育士の精神的ケアについての事例が紹介されました。朝日新聞の取材もあり、福川先生の的確なご指導のもと、充実した討議が行えました。 担当 高槻 由美子

■9・10月に、熊本県大津町・新潟県魚沼市で出前講座が開催されました。
「家庭的保育を始めるにはどうしたらよいか」と活動されている事例を紹介します。

◇私たちの町でも家庭的保育を！◇
「もっと知りたい！家庭的保育」セミナーを開催

NPO こどもサポート・みんなのおうち事務局長 佐藤 真二

私ども、NPO こどもサポート・みんなのおうち（'06年発足）は熊本県大津町で、学童保育クラブや子育て支援センターの運営などの事業を核とした、さまざまな子育て支援の活動を行っている団体です。

大津町は人口3万2千人、'04年に「日本でいちばん子育てに夢をもてるまち」のキャッチフレーズを掲げた、次世代育成支援行動計画を全国に先駆けて策定し、子育て支援サービスを充実してきました。その効果もあってか、子どもの数は増え続け'04年以降、0～5歳児の人口は300人以上増加しました。当然、待機児童の数は増え、町も保育所施設の拡大や定員増など多くの施策をとってきましたが、対策は追いつきません。

その中で私たちにできることは何か・・・を考え出てきたのが「家庭的保育」という選択肢を町に提言することでした。2月に町に提言書を提出し、「待機児童解消先取りプロジェクト」の流れもあり、町も検討を始めました。

しかし、「待機児童対策のための家庭的保育」というこの考えは「大人の都合」にすぎません。家庭的保育には、保育所と比べコストが抑えられる、着手しやすく即効性があるといったメリットはたくさんあります。でもそれ以前に、家庭的保育そのものが子どもと子どもを育む大人にとって「いいもの」であることが最も大切なことです。

それを確かめるためには、実際に家庭的保育に携わっておられる方からよく話を伺うことが必要でした。またそのことは実際に家庭的保育事業を実施する場合に行政・議会・町民といった関係者の議論をスムーズに進めることにもつながると考えられました。

9月17日（土）、こども未来財団からの助成を受け「もっと知りたい！家庭的保育」セミナーを開催しました。参加者は行政と議会・保育者として関わりたい方・子育て支援に関わる方など30余名です。講師としてNPO法人家庭的保育全国連絡協議会の福川先生、番場先生にお出でいただき、「家庭的保育の一日」のスライドショーに、詳しくコメントをつけていただきながらのお話を伺いました。

参加者アンケートは「現場の方の話を聞いて理解できた」「(写真の)子どもの表情から楽しい様子が伝わってきた」など家庭的保育を好意的に受け止めたものが多く、開催の目的は達成できたと喜んでおります。

熊本県は、大津町と近隣市町での次年度からの事業実施のため、家庭的保育者の基礎研修や指導者研修を行っており、このセミナーに参加された方も多く受講されました。また、町も事業の枠組みを検討しており、私たちもそれに対して様々な提案をしていかなければなりません。

これからも協議会のご指導をいただきながら、熊本での家庭的保育の成功に向け、努力していきたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

■講師を担当して

武蔵野市 番場 かよ子

家庭的保育を始めて十数年来、遠出をすることができなかつた私が、今回機会を得て、熊本県大津町にお邪魔させていただきました。もちろん家庭的保育の実際の様子や良さをお伝えに行った訳ですが、その合間に「みんなのおうち」の子育て支援センターを見学させていただき、皆様が活動に前向きに取り組む様子を見聞きする中で、子育て支援に対する熱い思い、パワー、また家庭的保育への期待など大いに感じてまいりました。そして、この私も自分のできることをこれからもマイペースで頑張っていこうと気持ちを新たにさせていただきました。家庭的保育を、少しでも多くの方に知っていただけるのは嬉しいことです。

■魚沼市での出前講座

福島 泰子

10月1日（土）魚沼市で小規模保育を行っている星春子さんからの依頼で「出前講座」に行ってきました。一部、星さんたちのことばを引用しつつ紹介いたします。

魚沼市は人口 40.897 人（世帯数 13.511）で待機児の心配もない所ですが、保育園は公立 9 園・私立 2 園、定員が 270 名・150～180 名と大規模な保育園が多く、保育園の統合が進められているとの事。子ども達をバスで送り迎えし、身近な場所に、保育施設がないのが現状。星さんたちはそれを心配し、せめて 3 歳になるまでは、一人ひとりを大切にしたい、ゆったり保育ができる「家庭的保育」を取り入れたいと、行政等に働きかけを続けており、『① 自ら子ども達がすでに持っている育つ力・生きる力を大切に伸ばすと共に、自己、他者を信頼でき自立した大人に育つ為の環境を整え、サポートする。② 魚沼市の実情にあった安心して子どもを産み、育てられる環境を整え、もっともっと子育てしやすい地域にする』を目的に「魚沼の子育ちを考える会」を立ち上げ、多くの人に知ってほしいと今回の出前を企画して下さいました。

当日は、行政の担当者・議員・保育者・保護者等 53 名の参加があり、家庭的保育の一日を映像で紹介、体験を交えながら家庭的保育の良さ・課題を話しました。皆さん、熱心に聴いてくださり、ゆったりとした保育・個々を大切にしたい保育の様子は伝わったと思います。

待機児はいなくても、産休明けからの保育や乳児の小集団保育、一時保育の要望は多く魚沼独自の課題があり、その解決に「家庭的保育」を取り入れる事ができないか？星さんたちは要望書を提出したり、アンケートをとったりと、真剣に考え活動されています。

10 月には、家庭的保育の陳情が市議会で採択され、「魚沼の子育ちを考える会」としても、これからの活動について話し合いを重ねているとの事です。

今後、『魚沼市に家庭的保育事業を導入してもらえる様、更に活動を重ね、子育て支援事業を子ども達や子育て中の親子にとってトータルで色々な場面に柔軟に対応できる支援になるよう仕組みづくりと予算確保を実現できるよう関係機関と協力・連携を取り進むべき道を見つけていく』と、報告がありました。

どういう形をとったら実現できるか、市民を巻き込んで進めていきたいと、又参加者の方からも更に皆へ知らせる事が大事とのエールもあり、きっと活動が実を結ぶと希望を感じました。参加していた、4 人のお子さんを育てているお母さんから、「いつか私もこの保育がしてみたい、どう準備すればいいですか？」という相談や、二重保育をしながら働いているお母さんからは、「身近に家庭的保育があれば安心」という声も聞かれました。

地域のニーズにあった保育の選択肢として、行政が「家庭的保育事業」を取り入れ「魚沼市でも家庭的保育が始まりましたよ！！」という喜びの声が届く日を、待ち続けたいと思います。

『 』内は、魚沼の子育ちを考える会の文章を引用しました。

《理事会報告》 準会員（団体）会費の変更について

当協議会の会費についてですが、個人の会費に対して団体会費が低いのではないかという意見が設立当初よりありましたが、平成23年10月22日開催の第16回理事会において審議し、「準会員（団体）の会費を10,000円とする」と決定いたしました。よって平成23年10月22日より準会員（団体）の会費は10,000円として施行することをご報告いたします。

改定後の会費は以下になりましたので、ご確認をお願いします。

定款 第55条

附則6 この法人の設立当初の年会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。年度途中での入会であっても、金額は同じとする。

正会員（個人）	6,000円
準会員（個人）	4,000円
準会員（団体）	10,000円（変更箇所）
賛助会員（一年一口）	2,000円

事務局 水嶋昌子

☆真岡市の大震災について

11月19日(土)宇都宮駅前、大震災を経験した真岡市の家庭的保育者〈保育ママ〉から、保育の現状及び東日本大震災時の状況と、その後の対応等についてお話を伺いました。30年前は40名だった保育ママが、いまは8名。自宅を使用するの拘束時間の長さが一番の問題で、新規の応募者が少ないそうです。

地震で揺れている時は“受託児と生き延びることだけを考えていた”そうですが、落下と倒壊に対する避難経路は、事前に予測確認しておいた方が良く、瓦などが落ち、塀も倒れる状況なので、すぐに外に出る方が危険～などのアドバイスも頂きました。震災後は①水の確保のためのポリタンクなど必要物資の常備②避難グッズをすぐ取り出せるところに置く③何もない避難部屋を用意する④保護者携帯メルアドの再確認などをすぐ実施したそうです。ガソリンや電池、水、ビニールシートなど必要物資が店頭になくなり困ったこと～、断水・停電に対応する準備の必要性など生活に密着した実体験をいろいろとお話し頂きました。

震災後、子どもたちが揺れにすぐ怯えるようになるなど、心のケアが必要で、いまもすぐに抱きかかえて、安心させるなどの対応をしているそうです。策定中の「家庭的保育の安全ガイドライン」の参考となる、とても貴重な意見を伺えました。〈高槻〉

◇第43回全国保育団体合同研究集会◇
～群馬合研に参加して～

毎年、期待をもって参加している合研。今年の群馬合研は忘れられない合研になりました。会場のぐんまアリーナはたくさんの参加者で埋め尽くされ、そこで始まった初日のオープニングフォーラム。講師の先生が「子ども・子育て新システム」の問題点を取り上げられました。「保育制度の市場化により企業の参入がおこる。そのことは、低レベルな保育が増えてくることにつながり、家庭的保育のような保育が・・・」という言葉に、参加していた家庭的保育者である私たちは、ショックのあまりそのあとのフォーラムの内容は耳に入らなくなっていました。十数名の仲間がいましたが、みんな気持ちが沈み、悲しみと怒りと虚しさで・・・言葉を交わさなくても気持ちは同じでした。

その夜の交流会は、交流会というより意見交換会となり、私たちが大切に守り、広く伝えようとしている家庭的保育が、まだまだ知られていないことを実感しました。保育の質の向上を目指し、デメリットを解消し、家庭的保育が一つの保育形態として認められるようにもっと伝えていかなければならない。それは、家庭的保育に携わっている私たちが発信していかないとできないということです。翌日は、予定を変更して「新システム・幼保一体化と保育の未来」のシンポジウムに参加しました。終了後、ほんの数分でしたが、オープニングフォーラムの講師の先生に私たちの家庭的保育の取り組みをお話してきました。きちんと聴いてくださいました。今後の課題は多くありますが、まず一人一人の家庭的保育者が保育の質を確保し、その保育を伝えていくことが必要だと思いました。今度は、喜びで忘れられない合研となるようにしたいものです。

川崎市家庭保育福祉員 水嶋昌子

今年の合研は分科会での提案者ということで初めて一日目から参加しました。ワクワクしながら参加した全体会ですが、そこでは新システムが導入された時の問題点として家庭保育が取り上げられ、いきなり悲しくなっていました。翌日の分科会では、安心こども基金で保育室の一部が改装でき環境が整えられたこと、震災を体験して補助員とともに複数で保育することの重要性を強く感じたこと、福祉員どうしのつながりが保育の支えになっていることなど私自身の体験をもとに横浜市の現状を発表しました。その後「安全で安心な保育」をテーマに意見交換される中で、地域や自治体、更には受託児数等、型によって制度にかなりの差があることを知りました。

こうした情勢の下、安全で安心な保育を行い広く社会に知らせていくことは本当に必要だと思います。そのためには複数保育を要求し、福祉員同士がつながりを持ちながら保育の質を高めていかなければいけないと思いました。

横浜市家庭保育福祉員 福田 みどり

合研は、1969年全国の保育者や保護者など保育や子育てに関わる人たちが集まり、長野県で開催したのが始まりということです。今年も、ALSOKぐんまアリーナなどの会場に、一万人規模の人たちが参加し、テーマごとに40の分科会等で真剣な討論が行われました。

今回の合研参加ですが、私にとって例年になく緊張するものでした。厚木市の代表として、「家庭的保育の現状と課題」を検討する、31分科会の提案者となったからです。厚木市では、一時、制度存続の危機を迎えましたが、自分たちの努力と、全国家庭的保育ネットワーク〈現NPO 法人家庭的保育全国連絡協議会〉の皆様との支援等で乗り越え、保育を続けることが出来ました。現在行政の皆様にご支援頂き、事故や怪我もなく保育をしています。

そんな厚木市での保育の現状を、駒沢女子短期大学の福川須美先生のアドバイスを受けながら、参加の皆さんにお伝えしました。

「安全・安心な保育」がテーマでしたが、3月11日の東日本大震災を受けて、課題も多く、中身の濃い充実した討論が出来たかと思えます。

厚木市家庭保育福祉員 本山玲子

☆笑顔がいっぱい “いっしょにあそぼ！” in 厚木☆



- ◆開催日時 10月30日(日)AM10:00~12:00
- ◆会場 厚木市総合福祉センター6階ホール
- ◆定員 40組の親子 参加費無料
- ◆主催 NPO 法人家庭的保育全国連絡協議会
- ◆後援 厚木市 ◆対象 三歳未満のお子さんのいるご家庭ならどなたでも

上記内容の案内チラシ 1.120 枚を配布し、参加を呼び掛けた今回のイベントには、当日約 175 名ほどの皆さんが参加されました。ダンボール 125 枚を使用しての可愛い迷路やエプロンシアター・お魚釣り、ヨーヨー、お面作りに竹細工・風船アートなど～いろいろなコーナーが用意され、沢山の親子が笑顔で楽しんでいました。厚木市の家庭保育福祉員 6 名と補助員の方々の団結力が結実し、イベントは大盛況の内に終了しています。なお NPO から川崎・横浜など 12 名が補助として参加しました。

☆団結の力が、ドキドキをうれしさに！

厚木市での家庭保育福祉員初めてのイベント “いっしょにあそぼ！” が決まって、準備～当日までは大変な作業でした。わずか 6 名の福祉員、そして補助員の方たち。でも今回補助員の方々は大きな力となりました。準備段階から私達につきあって意見を出してもらい、保育の場ではないところで、福祉員と補助員の輪と団結力が芽生えました。

そして、川崎の皆様にはシールラリー、おみやげ、その他いろいろお手伝いをしていたいただき感謝です。また NPO の皆様の応援も私達の力となりました。

当日はどのくらいの方が参加していただけるか、ドキドキでしたが、どのコーナーもたくさんの方で埋まりました。事故もなく、子ども達や保護者の方が “楽しかった！” との言葉を残し、帰っていったことに大満足でした。

このイベントが、これからの厚木市の家庭保育の発展につながることを信じています。

厚木家庭保育福祉員 井上 ひろみ

☆とても良かった！が 82.1%

前日から “いっしょにあそぼ” の材料搬入に始まって当日は天候やら入場者数と心配は尽きなかったのですが、NPO の方々や川崎の家庭保育福祉員、行政の方などの力添えがあって、なんとかやり遂げました。とてもよかった 82.1%、よかった 17.9% のアンケート結果を見て、ホッと胸をなでおろし、今更ながら皆の団結力のすごさを見た思いがしました。この団結の力を、今後の家庭保育に活かしていきたいと思っています。

厚木家庭保育福祉員 市瀬 多鶴子

☆8P “いっしょにあそぼ！” in 厚木報告

☆笑顔がいっぱい “いっしょにあそぼ！” in 厚木☆

◎ “かあかん！” と呼ばれて 35 年◎

真岡市保育ママ連絡協議会 広瀬 康子

☆保育ママが支えた 0 歳児保育

私が栃木県真岡市の保育ママになって、35 年になります。真岡市の保育ママの第一条件は、「母親であること」でした。母親の経験と愛情を持って、子ども達を兄弟姉妹のように、母親が子どもを育てるように保育してきました。真岡市は平成 10 年まで、市の保育所での 0 歳児保育はしておらず、多い時には 40 名近くいた保育ママが、0 歳児保育を引き受けていました。当時の市長が「0 歳児は家庭の中で、母親の胸の中で育てた方が良い」という考えだったようです。もちろん私達は 0 歳児だけでなく、「三つ子の魂を大切に」を心に留め、団体生活に適應できる年齢まで、保育してきました。

☆たくさんの兄弟の中でわが子を育てたい

その当時、私は自分の子をたくさんの兄弟の中で育てたいと思っていました。でも環境や経済的にも無理があります。ですから私にとって、保育ママになることは願っていませんでした。保育ママを始めた時、私も小学生の母として子育ての延長線であり、子ども達の両親と私との年齢が近く、考え方も同じようだったと思います。そのため子ども達は、従兄弟のようであり、親の私達は兄弟姉妹のような関係になりました。

ある子が母親に「ボクのおかあさんは、本当はどっち？」と言ったそうです。朝 7 時にきて、夜の 7 時半にお迎えがくる子でした。母親は感謝をしながらも、複雑な心境だったと思います。またある時は、「お母さん（私）は作ってくれる人、ママは買ってくれる人と言われちゃった」とテレながら言った母親がいます。その時は、女の子一人だけ預かっていたので、料理を一緒に作り、ベストを編んであげたり、スカートを縫ってあげたりしました。家にいて手作りする私と、休日に忙しく買いためする母親の姿を言い表したものだと思います。

☆私たちは広瀬ファミリー

「私達は広瀬ファミリー」と言ってくれた母親がいました。みんなで「大家族」そんな印象を持ってくれたのかもしれませんが。始め「お母さん」と呼ばれていたのが「かあかん」になり、私の子どもや孫まで私のことを「かあかん」と呼びます。子ども達の家族でバーベキューをしたこともあります。多い時は 10 組ぐらいの家族が集まりました。上野動物園に行った時は、「子ども会ですか？」とお年寄りに声を掛けられました。うちから巣立っても、交際が続いていたので、年齢差があり育成会のように見えたのでしょう。

☆家族ぐるみの保育

保育ママを始めた頃は、主人の両親が支えてくれました。そして、主人や子ども達の理解と協力で、家族ぐるみの保育を続けてきました。今は、長男の嫁が同居で私を支えてくれ、保育ママになった次男の嫁とは、お互いに協力し合い、娘は幼稚園教諭として外から私を支えてくれます。定年で家にいるようになった主人は、甘いおじいちゃんとして、私を手助けしてくれます。私の保育は、家族と家族の繋がりの中での保育でした。

☆計り知れない子どもの感性☆

東京都大田区家庭福祉員 須藤 恵美子

★いまだに解けぬ謎の絵本

我が家（家庭的保育室）には、未だに解けない、謎の本が1冊あります。レトロな特急列車が描かれている表紙で、ページをめくると、今の子ども達は恐らく見た事のない様な駅の改札口が出て来て、主人公の“みよちゃん”が、駅員さんに切符を切ってもらっています。保育園に勤めている友人からセットで譲ってもらった本の中の一冊・・・かなり古いし、ぼろぼろになりかけているので買い替えようか？でもこれはもう廃版になったのでは？とまで考えて、ある大型書店の絵本売り場へ行くと、大きな衝撃を受けました。なんと真新しいあの本が他のロングセラーの絵本と一緒に、売り場の中央に何冊も積まれていたのです。思わず、通りかかった店員さんに「この昔の特急列車の本、まだ出版されているのですね」と聞いてしまいました。「あの本は、名作ですから・・・」「はあ～～」・・・のどかな田園風景が広がり、牛が線路のそばで寝ていたり、ランニング一枚で虫取り網を持った子どもや、川で首に手ぬぐいを巻き釣りをしている人、描かれている車や列車はまさに昭和の香りが漂いどこか郷愁を誘うあの本の、何が子ども達をこんなに引きつけるのか・・・？ノスタルジーを追い求めるDNAが子ども達に組み込まれているのではないかとまで思ってしまう。買い替えてもたちまち取り合いになり、毎年、毎日のように“読んで”と持ってくる子がいます。あまり毎日何回も持ってくるので、お誕生日にプレゼントした事もあります。すると、お母さんに何度もせがんでお母さんがすっかり本文を覚えてしまった事もありました。そして今年も・・・。二冊目もボロボロで三冊目を購入予定です。“とつきゅうれっしや、しゅっぱつしんこう！！” ガタンガタンガタン・・・擬音を入れてあげるとより効果的な様です。

★子どもが好きな“まさか”の絵本

上記の“しゅっぱつしんこう”山本忠敬 作（福音館書店）は、1982年にこどものとも年少版8月号で初出版されました。人気が高かったのか、単独で幼児用絵本として再出版されたものです。この様に、大人から見ると“まさか”と思うような物が意外と子ども達は、大好きだったりします。自分で本を選ぶと好みや思いからジャンルが偏りがちですが“こどものとも”を定期購読すると、色々な型式の絵本と出会い子ども達の計り知れない感性を改めて発見できたりします。こどものとも0・1・2、年少版とも400円位ですので、毎月1冊どちらかでも、定期購読する事をお勧めします。

★“こどものとも”0・1・2〈福音館書店〉人気絵本★

- ① “ぼんちんぱん” 柿木原政広 作（言葉遊びが子ども達は大好きです）
- ② “がたんごとん がたんごとん・ざぶんざぶん” 安西水丸 作（擬音語が子ども達を引きつけます）
- ③ “すずめちゅん” あらかわかおる 文
- ④ “はと” 菊池日出夫 作（どちらもお散歩で見た時、昼食前に読んであげると目がキラキラです）

※1年間定期購読しただけでも、ちょっとした絵本コーナーになりますよ。

■事務局からのお知らせ・お願い



☆NPO法人家庭的保育全国連絡協議会専用団体保険 加入手続きのお知らせ

* 継続者の方更新手続きは、2月24日締め切りです。

- ・ 1月末に保険会社よりご案内が送付されます。
- ・ 保険料入金と依頼書に振り込み用紙コピーを貼って返送してください。
- ・ 24年度年会費未納の場合は、保険が継続できません2月20日までに年会費をお振り込みください。

* 正会員の方が新たに協議会の保険に加入される場合

- ・ 保険加入希望者基礎調査票を1月中に下記へお送り下さい。保険加入対象の確認をした上で、ご案内をお送りします。
- ・ 来年度の保険加入申込みから、これまでとは方法が変わります
依頼書、振り込み確認コピーは、代理店に送って頂きます。
記入・入金ミス、期日遅滞、口座間違えなど、事務局では把握出来ませんので、間違いないようにお手続きください。

FAX 045-489-6115

Eメール info@familyhoiku.org

☆「会員募集中！」

23年度は「安全・安心な家庭的保育」のために、ガイドライン策定などの事業を実施してきました。24年度も引き続き「家庭的保育の普及啓発」「家庭的保育の質の向上」を目的とし、一年を通して活動してまいります。全国各地からのいろいろな意見を基に活動できるよう、一人でも多くの方に会員となっただき、参加・ご協力をお願い致します。入会はいつでもOKです！入会手続きなど詳細はHPをご覧ください。

「お待ちしております！！」

○継続手続きの方

口座番号など、不明な場合はご連絡ください。

○ご支援くださっている皆様

いつも温かく見守っていただき、御礼申し上げます。

是非 賛助会員となっただきたく、お願い致します。

☆「現任研修のご案内」

今年も国のガイドラインに基づき、「保育室の安全の工夫」等、保育実践に繋がる現任研修を実施しています。講座1～7は終了しましたが、家庭的保育者、補助者、家庭的保育支援者、行政など、多くの参加がありました。これからの研修は1/15が子どもの障害の理解と保育者の役割、2/12家庭的保育における子どもの健康支援、3/10安全講習会です。専門の講師から学び、参加者同士交流することで、スキルアップを図りましょう！申し込みは、ホームページをご覧ください。

-
- 編集後記 大震災から9か月が経ちました。亙理町や真岡市の方々から体験を伺うと、心の奥深くで“いのち”の重さを痛感せずにはいられません。緊急時受託児の“いのち”を守るために、どう対応するか～平常時どう備えておくか～船橋・山形・横浜とワークショップに参加しましたが、「安全・安心な家庭的保育のガイドライン」策定の意義を、再認識しています。多様な視点からの策定結果、具現化が待たれます。今回、12号発行にご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。 〈高槻〉

*** 新刊を紹介します ***

『保育者のストレス軽減とバーンアウト防止のためのガイドブック』
心を元気に 笑顔で保育

著者 ジェフ・A・ジョンソン

子どもの領域研究所 尾木まり

◇出会い

2009年7月、アイルランドのコーク市で開かれた家庭的保育の世界大会で、本書の著者ジェフの講演 *finding your smile again* (図書の原題と同じ)を聴く機会がありました。正直なところ、4日間の大会の一番最後に重い話は聞きたくないなと思ったのですが、講演が始ってみると、予想とは全く異なり、笑い通しの1時間が待っていました。いかにも深刻な重い話を、笑いながら聞かせるジェフの才能に本当に驚きました。

ジェフはアメリカでコミュニティセンターや保育所の所長を務めた後、バーンアウトし、退職します。その後、妻のターシャとともに家庭的保育を始めました。また、自分がバーンアウトしたときに参考にできる図書がなかったことから、彼がバーンアウトを克服したときに、同じような思いをする人が参考にできるようにと、本を書くことを決めたそうです。家庭的保育者として働く傍ら、多くの家庭的保育者の相談にのり、またバーンアウトを回避するために全米で講演を行っています。

◇保育者の思いは万国共通

ジェフの講演はユーモアに満ち、明快で、そして説得力のあるものでした。もっと詳しく知りたい、日本の保育者の皆さんにも紹介できないか？そんな思いで、仲間と一緒にこの本の翻訳を進めました。そして、驚きました。アメリカの保育者の話でも、日本の保育者と共通することがたくさん含まれていましたし、家庭的保育者でも保育所の保育士でも、共通する思いがたくさんあることに気づきました。

例えば、こんな箇所がありました。皆さんにも似たようなことはありませんか。

○私たちはケアを必要としているどんな人にも「できません」と言うことができません。

○「できません」と言いたい。それが自分たちを楽にすることは知っているのに、その小さな、それでいて強い言葉を発することができないのです。

それは私たちが後ろめたさを感じるからです。まるで誰かをはっきりさせているような気持ちになるからです。

○(保育者のように)対人援助職に魅力を感じる多くの人は、生まれつき感受性の高い人です。そういう人は周囲の人たちの気持ちをたやすく感じ取ることができて、彼らが必要とすることに同情し配慮します。

保育者の誰もがバーンアウトに陥るわけではありません。でも、ジェフからの強いメッセージは、すべての保育者に向けられています。それは、『あなた自身をもっと大切にすることです。保育者が心身共に健康な状態であることが、良い保育を行うための条件だということです。そのことを私も皆さんにお伝えしたいと思っています。』

☆12P 新刊紹介

(BOOK DATA：福村出版 2011年11月発行 尾木まり監訳)